

助成年度：平成 25 年度

〔所属〕 法政大学 人間環境学部

〔役職〕 教授

〔氏名〕 西城戸 誠

〔課題〕

## 生業の創出を核とした地域社会の回復力を形成する一宮城県石巻市北上町（橋浦地区ならびに十三浜地区）の被災経験から一

〔内容〕

本研究の狙いは、東日本大震災にともなう大津波によって甚大な被害を受けた宮城県石巻市北上町における地域復興支援の実践を行いながら、住まい(住居)と暮らし(農業と漁業を中心とした生業)の復興、それに伴う地域社会のアクターの再編を実証的に把握したうえで、地域社会のレジリエンスを問うことにある。東日本大震災によって自然環境が大きく損なわれ、それゆえ地域社会のレジリエンスも損なわれた。自然環境と地域社会のそれぞれのレジリエンスやその両者の関係性を再構築することが、人々の暮らしや地域社会の「再生」を図ることになる。第一に、「住まいの再建」に関わる集団高台移転事業についての調査研究である。本研究メンバーは、新たな集落、地域社会の再編に必要なものは何か、どのような地域復興の活動や実践が試みられているのかを明らかにしてきた。第二に、石巻市北上町における「暮らし(生業)の再生」に関する調査研究である。北上町橋浦地区(農業)と十三浜地区(漁業)の主たる生業と、生業を取り巻く地域社会の規範や社会関係の構造の比較研究を行い、それぞれの地区の生業と暮らしの復興フレーム、生業と暮らしの再生のためのガバナンスの構築について考察する。第三に、「地域社会の再編/回復」に関する震災以降の北上町における地域住民の主体的な活動への着目と、まちづくり活動をサポートする制度的な研究がある。前者は、震災以前から北上町における「女性」の位置づけとその伝統的な地域活動の変化について調査を進めながら、若い世代が中心となって立ち上げた地域の子育て支援活動団体に注目し、震災復興における「女性」の立ち位置の変化を探った。後者は、東日本大震災においては、「復興応援隊」(宮城県)という中間支援主体の導入が進んでいるが、北上町の現状と今後の課題を明らかにし、復興支援の制度設計に対する提言も行った。